

東京國際軍事裁判所

亞米利加合衆国、英、
米、
端木貞六、其他

予信川義穂ハ下記ノ眞實ナル事ヲ良心ニカケテ
管フモノアリマス。

私ハ六川鳳明博士ヲ久シイ日知ツテ居リマシタ。
私ハ彼ト昭和維新ノ鼓吹ニ爲イテ度々長崎議ヲ歎
シタコトガ有リマス、テ彼ノ主張ハ公ク汎アチャ
主義ニ關スル眞券ノ若者議ハアチャ主義ノ白人區
過教育等ニ通ベア居リマス。

一九三一年ノ一月カ二月ノ頃時私ハ東京ノ某處
信テ上記六川鳳明博士、英、
米、
端木貞六、
小島義昭ノ名前ヲ差出シマシタ。此
前記コモト六位ハ前記小島以下ノ命ヲ受ケテ來
郵シ、私ニ前記六川鳳明博士ニ會ツア、彼等が以

前ニ意見ノ一端ヲ見タ計画進行ノ意趣トシテ政府
ヲ軍部クリテリタノ下ニ置ク首脳ヲ貽念スルベク
海士ヲ説得スル様私ニ口ツクノテアリマス。
前記コモト大佐ガ隣居シタノテ、私ハ直ニ前記大
川夙明海士ノ辰良ヲ訪用シ、長崎義ノ結果前記大
川夙明海士ハ軍部ノ意圖ニ從ツテ該計畫放棄ニ同
意シタノテアリマス。

數ヶ月後ニナツテ前記小島田四口下ハ私ニ電話
テ來郎シテ吳レト申シマシタノテ私ハ之上面シマ
シタ。私ガ四口下ノ郷ニ居ル間ニ前記小島田四口下ハ次
ノ様ナコトヲ申シマシタ。一ハ私ハ今之隊本部内
テ國ツク境過ニ居ルノテス。其ノ理由ハ約三〇〇
隻ノ船引立不成功ニ終ツタ三月クリテリタノ侵用
ノ爲メニ獲得シテ、該長島ヲ一潜水コノスケート
謂フ者ノ家ニ引渡シテ今尙該長島ハ此ノ潜水ノ所
有ニアルノテス。一ハ前記小島田四口下ハ申シマシタ。一ハ私ハ故同前
記潜水ニ論シテ該長島ヲ返却スペク兵部シタノテ
スガ、前記潜水ハ之ヲ拒否シタノテス。ソコ
テ前記小島田四口下ハ私ニ直ニ前記潜水ニ貯ツテ該長
島ヲ返却スペク兵必兵ナラバ金錢ヲ支拂フ様ニ申
シ付ケマシタノテ、私ハ直ニ前記潜水ノ郷ニ上
頭シマシテ、該長島ヲ金錢ノ支拂ヒ無シニ軍部ニ
返却スル様頼メタノテアリマス。

候官 箕川義親

一九四六年六月一五日日本山東京山岸省内ニ於テ
上記箕川義親ハ下記所候旨ノ前ニ宣誓捺印ス。

ハリマン・ドルスイ、

大蔵・法務局

證 明 書

予テエリ・エム・スミヨシハ日本英語ニ
通じセル者ニシテ當日上記宣誓書ノ前記箕川義親
ニ日語ニテ讀譯セシメ、斯クシテ其内容ヲ英語ヨ
リ日語ニ眞實且ツ正確ニ讀譯シ前記箕川義親ハ上
述宣誓書ノ内容ハ眞實ナリト申告シタリ。

斯クシテ彼處ヲ宣誓シテ該宣誓書ニ署名捺印ヲ欲
スゝト即チ箕川義親ハ予ノ面前ニ於テ正シク宣誓シ
且ツ面前ニ於テ該宣誓書ニ宣誓署名捺印シタルモ
ノナリ。

上述宣誓ノ施行並ニ前記宣誓書ニ依ル署名捺印ニ
附屬セル訴訟手續ノ一切ハ日語ヨリ英語ニ又英語
ヨリ日語ニ眞實且ツ正確ニ讀譯サレ、前記宣誓書
ニ依リ充分了然を得サレタルモノナルコトヲ茲ニ
證明ス。

115nd

1923年六月一日日本横濱市

一 諸君の御用意・御心・御用意